

テーマ

# ヘイト・スピーチと「愛国」

～なぜ差別と偏見が生まれるのか・現場取材から見てきたこと～

お話しして下さる方 **安田 浩一さん** (ジャーナリスト)

期日 **2014年 6月 28日(土) 午後2時～4時半**

会場 **日本教育会館 2階 東京教組会議室**

都営新宿線・三田線 ×トロ半蔵門線 神保町駅下車4分 JR 水道橋下車 15分

参加費 **1000円**

今年度も昨年度に続き「憲法」の問題を取り上げます。

安倍政権の憲法「改正」にむけた方針に拍車がかかり、集团的自衛権容認などの解釈改憲にも危機感が募ります。憲法を護るための多くの行動が提起されていますが、今一つ社会の中にその機運が高まらないいだちがあります。朝鮮高級学校への高校無償化制度適用除外が当たり前のように入々に受け入れられていることと合わせ、「政治色を排除」との論理で平和集会に公共施設の貸し出しが断られるなど、政権方針に無批判に従う姿も感じられます。特に在特会の存在と、ヘイト・スピーチについては、非常に直接的な嫌韓・嫌朝鮮の表出で、在日の子どもたちへの危害もあやぶまれます。ネット右翼とよばれる草の根の安倍政権へのエールも多いと聞きます。人々の心の中に今何が起っているのでしょうか。

そこで今回は「ネットと愛国 在特会の『闇』を追いかけて」等の著書があり、在特会の若者への取材もされているジャーナリストの安田浩一さんにお話を伺います。安田さんは著書の中で『私の中にその芽がないともかぎらない。～私の中の「在特会的なるもの」がうごめいているからなのかも～』と率直な思いを語られています。それらも含め、今この社会の状況を的確に描き出して下さるのでは、と思います。

平和や人権についての大きな曲がり角です。学校現場への「愛国」強制も強まり、危機感を持って学習し行動しなければなりません。地域で共にならんでいる女性や、もちろん男性も保護者の方にも声をかけ、ぜひ多くの方の参加をお願いいたします。



<主催> 子どもと女性の人権を考える東京の会

<事務局> 東京教組女性部 ☎03-5276-1311